

伊都キャンパス研究施設

九州大学では、21世紀COEプログラムを契機に、九州大学「エネルギーキャンパス構想」の中核として「水素キャンパス」と位置づけられる伊都キャンパスにおいて、研究者・大学院生約300名、実験研究スペース15,000m²超の研究教育拠点を構築し、世界最高水準の研究教育環境を整備しました。また、民間企業会員600社以上の参加を得ている産学連携推進組織「福岡水素エネルギー戦略会議」と連携して、若手研究者が産業界技術者と密に交流し、情報交換を行える環境の整備を進めてきました。さらに、キャンパスを実証研究の場として活用し、「水素キャンパス」内での水素ステーションの設置や燃料電池実証研究の実施など、若手研究者が技術革新を身近に体験する機会を提供しています。



カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所
次世代燃料電池産学連携研究センター



水素エネルギー国際研究センター
(水素・燃料電池実証サイト)



次世代エネルギー実証施設



水素材料強度実験棟



水素材料曝露実験棟



水素材料先端科学研究センター
HYDROGENIUS



水素ステーション



燃料電池評価実験室



風レンズ風車

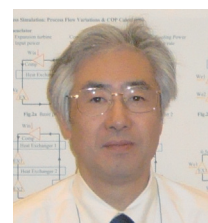


安全対策

伊都キャンパスでは水素の研究教育拠点に相応しい様々な研究を進めながら、可燃性ガスである水素を安全に使うための取り組みにも力を注いでいます。ハード面では、集中配管による水素の供給・排出システム、センサー、警報等の保安インフラはもとより、万一のガス漏れ警報時には水素ガスをポンベロで遮断し、同時に実験エリアの電源を遮断するなどの安全対策を整備しています。ソフト面では、本学環境安全衛生推進室の高圧ガス等安全管理部門の専任教員と密に連携し、また、本センター内に実務経験豊富な高圧ガス製造保安技術者を保安員として常駐させ、24時間体制の安全管理を行うなど、万全の安全管理体制を整備しています。本センターを利用する学生、教職員、スタッフには、定期的で開催する水素安全講習会の受講を義務付け、安全第一に研究できる人材の育成に努めています。軽微なインシデントが生じた際には「ヒヤリハット報告書」を提出させ、その情報を関係者が共有し、月例の安全衛生会議で対策を検討するなど、安全に実験を行える環境づくりに努めています。



実験従事者に対する安全講習会



環境安全衛生推進室
高圧ガス等安全管理部門長
教授 吉田 茂

